

北摂SATOYAMA地域における 地域循環共生圏の検討

令和元年7月30日(火)
兵庫県農政環境部環境管理局
温暖化対策課

北摂SATOYAMAにおける事業連携の検討

目的・概要

- 兵庫県(阪神北摂民局)では、2011年9月に**北摂里山博物館構想を策定**し、主として情報発信や環境学習などの事業等に取り組んでいる。
- 北摂地域では、過疎・高齢化の課題が進む一方、**地域団体の中から、エネルギーの地産地消など里山資源を「使う・創る」仕組みづくりに取り組む動き**が見られつつある。
- また、都市住民等の自然環境への関心とともに、観光客やインバウンド誘致に向けた環境整備も求められる中、**里山での豊かな生活を「住む・楽しむ」仕組みづくりを検討する必要**が生じている。
- 兵庫県(温暖化対策課)では、IGESと連携し、里山保全活動をベースに地域活動が盛んな北摂地域をモデルとして、地域に賦存する**再生資源を活用した地域づくりを進めること**で、上記の現状や課題に取り組み、「**地域循環共生圏**」を構築する。

北摂とは

- 令制国の摂津国北部に由来する地域の名称
- 一般的には大阪府北部、兵庫県南東部
- 兵庫県としては
阪神北地域を兵庫県における「北摂」と定義(伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町)



北摂里山博物館構想とは

阪神北摂民局管内にある30か所の里山のひとつひとつを展示物に見立て、「北摂里山博物館(地域まるごとミュージアム)」としている。

北摂里山博物館構想 里山分布地図



伝統的な里山(川西市黒川)

猪名川上流域にある川西市黒川の里山は、伐採年の異なるパッチワーク状景観を継続し、**菊炭**の伝承や茶の湯文化との結びつきからも「**日本一の里山**」と言われる。また、その周辺には、「**エドヒガン**」や**台場クヌギ**が見られる。兵庫県全体を見てもクヌギ林の分布は少ないことから、当地域のクヌギ林は貴重であり、オオクワガタが生息するなど**生物多様性の宝庫**でもある。



黒川の景観



炭焼き窯



エドヒガン



菊炭



台場クヌギ

先進的な里山

武庫川流域では、放置された里山を森林ボランティアなど地域の人々と協働で再生し、自由に散策できるフィールドとして整備するなど、里山と人との新しい関係が築かれている。この流域には宝塚市の丸山湿原(県天然記念物)や三田市の血池湿原(県天然記念物)など生物多様性に富んだ湿原が残されている。



溪の桜を守る会
(川西市水明台・エドヒガンの森)



丸山湿原群保全の会
(宝塚市西谷・丸山湿原)



櫻守の会
(宝塚市武田尾・赤薬山荘)

北摂里山博物館構想について

目的 生産活動はもとより環境学習、野外活動など、訪れる人々それぞれのニーズにあわせて活用されることを通じ、北摂里山の持続的な保全を図り、地域の活性化につなげる。

基本理念 北摂里山は日本人のころ

戦略コンセプト 「ひと、さと、ずっと」
人が里に恵みを。里が人に恵みを。
互いに恵みを与え合うことにより持続可能な社会の形成をめざす。

基本方針

①ネットワークの構築と活性化 ②共通プラットフォームの構築 ③北摂里山ブランドの創出と発信 ④広域連携の発信	北摂里山の新たな役割	①「見る・歩く・体験する」(ツーリズム資源) ②「知る・触れる」(情報資源) ③「住む・楽しむ」(環境資源) ④「使う・創る」(経済資源) ⑤「学ぶ・守る」(里育資源)
---	------------	--



取組の現状

北摂里山フォーラムの開催

北摂里山の持続的な保全に向けた取組の必要性や里山の新たな利活用方策等についての検討を進めるため、全国各地で里山の保全活動に取り組む団体を招いて開催

バーチャル北摂里山博物館の開設

北摂里山の自然・文化・歴史・伝統の情報をデジタル化し、ホームページで情報発信

北摂里山情報バンク

里山林の保全活動を行う場所を求めている団体と土地所有者とのマッチングをホームページを通じ行う。

「ひと・さとウォーク」の開催支援

電鉄各社(阪急、能勢、神戸)が実施するハイキングのうち北摂里山に関連する取組を支援

丸山湿原エコミュージアムの保全整備

丸山湿原群(県天然記念物)の維持管理のための保全整備事業や丸山湿原エコミュージアム推進協議会(H20.8設立)の事業活動(エコツーリズムや環境学習活動)の支援

里山資源を活用した環境教育・学習の推進

北摂里山大学、こども北摂里山探検隊、北摂里山体験キャンプ、教師のための環境学習会、夏休みのエコ作品コンテスト

北摂里山博物館運営協議会の活動支援

県民局、市町、団体等が一体となって設立した中核組織の運営を支援

北摂里山博物館構想実現に向けての課題

	里山資源	初動期 (2011~13年度)	第二期 (2014年度~現在)
北摂里山の利活用案	「見る・歩く・体験する」 (ツーリズム資源)	○ ひと・さと(北摂里山)ウォーク、トレイルコース開発 エリアマップ・案内看板作成、	○
		×	ホリデー路線バス開業
	「知る・触れる」 (情報資源)	○ Webによる情報発信、情報誌・ポスター作成、プロモーション映像、フォーラム、体験型ワークショップ	○
	「住む・楽しむ」 (環境資源)	×	次世代型里山コミュニティ創設、中期滞在型施設整備、里山ガイドの育成・活用
	「使う・創る」 (経済資源)	×	運営資金の創出、里山ビジネスの創出、再生可能エネルギー研究、農産物のリノベーション、新たな商品・サービスの企画と運営
	「学ぶ・守る」 (里育資源)	○ 北摂里山大学、こども北摂里山探検隊、北摂里山キャンプ、サポーターズクラブ、魅力づくり応援事業	○
		×	子育て里山ホームステイ、里山保全研修会

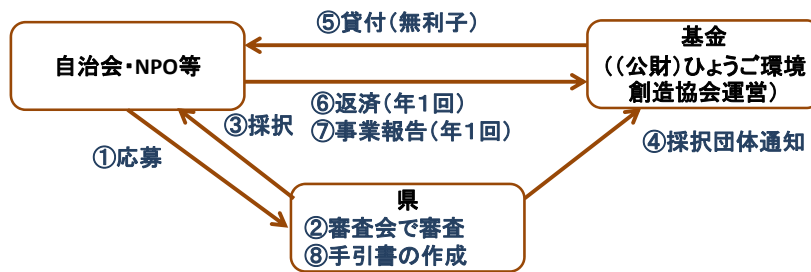
○は達成、概ね達成、×は未達成

地域創生！再エネ発掘プロジェクト (設備導入無利子貸付事業)

◆地域団体等による先進的な再生可能エネルギー発電設備の導入に対して、(公財)ひょうご環境創造協会と連携して無利子貸付を実施し、再生可能エネルギーの導入を支援

【地域創生！再エネ発掘プロジェクト(設備導入無利子貸付事業)】

- 貸付対象取組内容: 小水力発電や小規模バイオマス発電など全県モデルとなり得る先進的な地域団体等による再生可能エネルギーの導入
- 貸付限度額: 3,000万円(発電設備の導入に必要な経費の80%を上限)
- 貸付期間: 20年以内



8

設備導入無利子貸付事業設置状況



採択件数: 9団体
(すべて太陽光)

【例】市民農園として利用されている農地をソーラーシェアリング



【例】自治会館の屋上に置き基礎で太陽光パネルを設置



設備導入無利子貸付事業設置状況(平成26~30年度)

設備導入無利子貸付事業採択例

9

地域創生！再エネ発掘プロジェクト (再生可能エネルギー補助事業)

◆地域資源を活かした小水力発電や小規模バイオマス発電等について地域団体等が事業化に向けて実施する立ち上げ時の取組等に必要経費に対する補助等、地域活性化に資する再生可能エネルギーの導入を促進

【地域創生！再エネ発掘プロジェクト(再生可能エネルギー補助事業)】

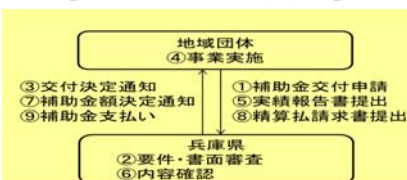
①立ち上げ時取組支援事業

- 補助対象取組内容: 勉強会、現地調査、先進地視察等
- 補助上限額: 30万円(定額)

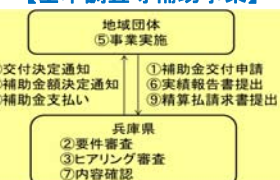
②基本調査等補助事業

- 補助対象取組内容: 流況調査、測量調査等
- 補助上限額: 500万円(補助率1/2)

【立ち上げ時取組支援事業】

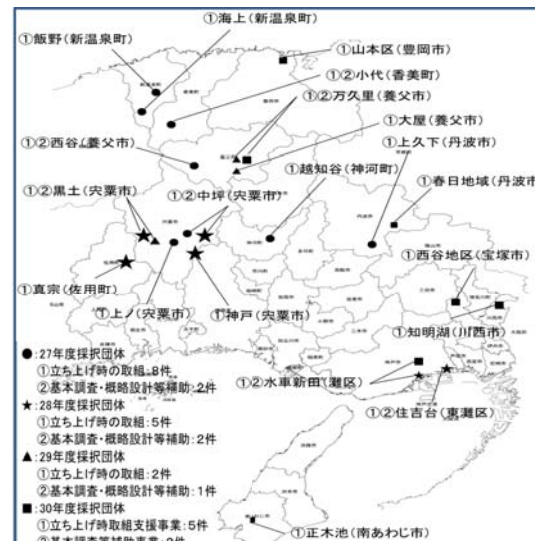


【基本調査等補助事業】



10

再生可能エネルギー補助事業採択状況



【例】事業候補地における簡易調査



【例】先進地視察(岡山県西倉倉村)



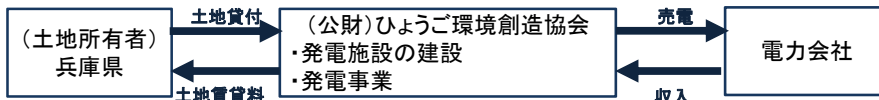
再生可能エネルギー補助事業採択状況(平成27~30年度)

再生可能エネルギー補助事業実施例

11

エコひょうご尼崎発電所

(公財)ひょうご環境創造協会が尼崎沖フェニックス事業用地管理型区画において、固定価格買い取り制度を活用した大規模太陽光発電事業を実施。



- 名称: エコひょうご尼崎発電所
- 所在地: 尼崎市船出29番
- 面積: 約15ha
- 発電規模: 約10MW (9,865kW)
- パネル枚数: 40,260枚
- 売電期間: 平成26年12月1日～20年間



パワーコンディショナー

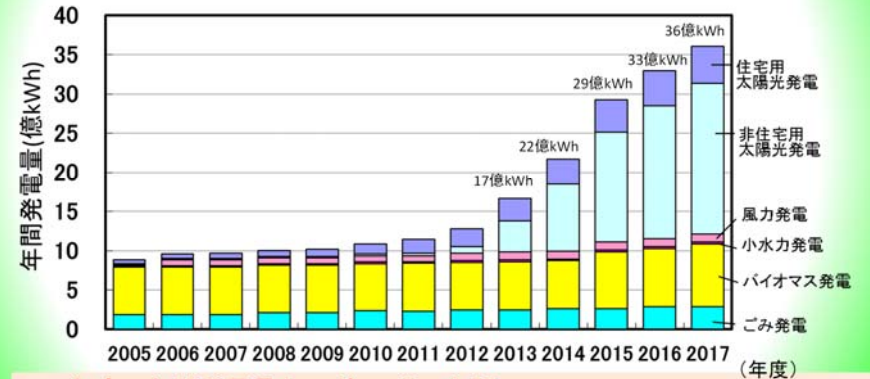


エコひょうご尼崎発電所

兵庫県の再生可能エネルギー発電量の推移

○住宅用太陽光発電による発電量が2000年度以降、補助制度や余剰電力買取制度等の導入によりゆるやかに増加

○2012年度以降の発電量が、固定価格買取制度の開始により非住宅用太陽光発電を中心に大幅に増加



2017年度の年間発電量(36.0億kWh)の内訳

太陽光: 23.9億kWh 風力: 1.0億kWh 小水力: 0.3億kWh バイオマス: 8.0億kWh その他: 2.9億kWh

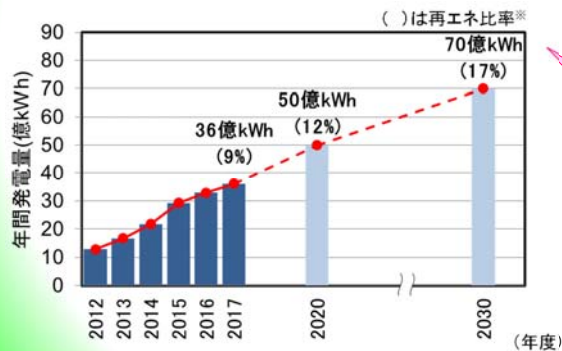
端数処理の関係で積算値と合計が一致しない

計画の目標～再生可能エネルギー導入目標～

【2030年度目標】再生可能エネルギーによる発電量70億kWh (再エネ比率※約17%)

【2020年度目標】再生可能エネルギーによる発電量50億kWh (再エネ比率※約12%)

※ 2020年度及び2030年度の県内年間消費電力量を2013年度実績並と想定した場合の再生可能エネルギーによる発電量が占める割合



太陽光を中心に今後も再生可能エネルギーの導入が進むと想定

太陽光以外の小水力やバイオマス等でバランスの取れた導入促進が課題

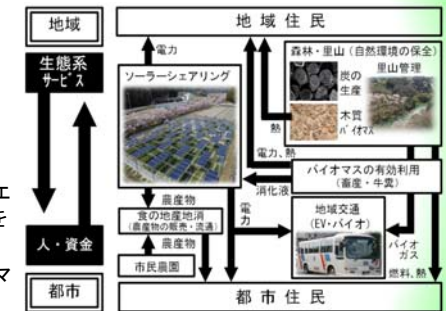
地域循環共生圏の検討 (地域のスマート化)

2030年にめざすべき姿

地域に賦存する再エネ資源を、持続可能な形で活用する「地域循環共生圏」を創出する。

イメージ

- 地域の特性に応じた多様な再エネを導入 (太陽光、バイオマス、小水力)
- 再エネを地域の産業活動(農業、交通等)に活用
- 地域の再エネや熱供給などを組み合わせ、エネルギーの地産地消を実現するシステムを構築し、地域内で資金を循環
- 地域エネルギー会社を設立し、トータルにマネージメント



課題・検討

- 北摂地域でモデル事業を実施 → 2019年度は計画を作成し、2020年度から本格実施
- 支援制度の創設
- 県内他地域への展開